

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)／岩佐
博久

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

学生の授業を担当していないため、担当している教員採用対策業務の「教採対策ガイダンス」における取り組みの目標・計画を記述する。

①授業内容

教員に求められる実践的指導力やコミュニケーション力、チームで対応する力など教員としての基礎的な力を高めるため、実技ガイダンスの充実を図る。具体的には、集団面接、集団討論、指導案作成、模擬授業、場面指導などを通じて、学習指導要領の目指す教育内容への対応や、生徒指導、特別支援教育、安全教育等、高度化・複雑化している新しい教育課題に適切に対応ができるよう、ガイダンス内容を見直していく。

②授業方法

学生が自ら課題を持ち、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決するといった主体的な学びを重視する。マイクロテーティングの手法を取り入れるなど、学生が探究的に課題解決していく演習形態を工夫していく。

③成績評価

個々の学生に進路目標に応じた具体的到達目標を掲げさせ、その目標をよりどころとして評価を行っていく。その際、学生の自己評価、学生同士の相互評価も重視する。

2. 点検・評価

①授業内容

一次試験から個人面接を実施している自治体があることを踏まえ、本年度は新たに該当自治体の一次対策として個人面接を実施した。1人あたり1～2回の実施であったが、学生は本番の面接に自信を持って臨むことができた。

②授業方法

二次対策において参加型の演習形態を取り入れるなど改善を図った。本年度はまだ十分な成果につながらなかったが、一次合格者に対する二次合格者の高い比率を確保するためには、学生が課題意識を持って主体的に取り組む演習型のガイダンスは欠かせない。

③成績評価

集団討論、個人面接等の実技ガイダンス、二次対策ガイダンスでは、面接官からの講評や評価に加え、学生同士でも相互に評価し合う取り組みを行うようにした。評価コメントを付箋に記入して渡したり、感想を述べ合うといった形であるが、学生同士の相互評価を取り入れることで課題解決への意欲や能力等の高まりが見られた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ① 教員採用試験(審査)において学校教育学部生の正規格者者50%以上を目指す。
- ② 学校教育学部生の教員就職率75%以上を目指す。
- ③ 教採対策ガイダンスの内容・使用資料等を検討・改善し、その充実を図る。
- ④ 各都道府県・政令市の教員採用試験の実施方法や内容を分析し、学生への相談に応じる。
- ⑤ 教員採用試験に課せられる一般教養問題、教職教養問題、集団・個人面接、模擬授業、場面指導、論作文、自己PR文等の指導の充実を図る。
- ⑥ 臨時教員希望者に対する説明会、個別の就職相談の充実を図る。

2. 点検・評価

- ① 2014年度教採については、卒業見込み者数に対する正規格者数が45人(41%)にとどまっている。兵庫県、京都府、和歌山県などでは高い合格率であったが、これまで多く合格していた徳島県、神戸市、香川県ではあと一步のところまで合格できなかった者が多くいた。もっと早い段階から二次対策を進めていく必要性を感じている。
- ② 2012年度学校教育学部卒業生の教員就職率は75.5%となり目標を達成できた。全国一位は確保できなかったが、保育士・大学院進学者を除く教員就職率がこれまでで最高の91.2%となり、全国一位となった。これは、卒業後もきめ細かく教員就職指導を続けた成果である。
- ③ ガイダンステキストや資料は出題を予想し、最新のもので実施することができた。
- ④ 前年度実施された都道府県・政令市の教員採用試験の実施方法や内容について、幅広く情報を収集し学生へに提供した。
- ⑤ 臨時教員を希望者に対するガイダンスを11月12日(火)に実施した。その後、各教育委員会への採用要望や学生に対する個別の就職相談をきめ細かく行っているところである。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ① 学校教育学部卒業生の就職状況の追跡・考察を行い、今後の教採対策に役立てる。
- ② 教員就職希望の多い都道府県・市の教育委員会の訪問、説明会の開催などを通して、教員採用方針や今後の採用状況の動向について把握する。
- ③ 教採実技ガイダンスにおける効果的な演習形態・演習方法の在り方を探る。
(以上の研究は、教員就職率の向上に資する上で重要なものである。)

2. 点検・評価

- ① 2012年度卒業生の就職状況について電話等により継続して確認するとともに、教育委員会に対する採用要望も行った。その結果、臨時教員を希望していた卒業生については9月末までに全員教員として就職することができた。
- ② 4月～5月に15都府県市の説明会を実施し、採用方針や採用試験の変更点等についての動向を把握した。また、11月～1月にかけて32の自治体を訪問し、採用方針や今後の採用状況等についての情報収集に取り組んだ。
- ③ 実技ガイダンスについては、今後個人面接や模擬授業・場面指導の演習に十分時間をかける必要性を感じている。新しくできるコア・ステーションを活用した効果的なガイダンスの在り方を検討している。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ① 就職委員会及び学生支援委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- ① 本年度も各コースの多くの先生方や事務方の協働により、充実した就職支援行事の計画及び実施ができた。また、学生支援委員会委員としては、学部2年次生合宿において、本年度は少し趣向を変え「今から始める教採対策」と題した講義を実施し、士気を高めることができた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ① 附属学校での教育実習前に「教育実習と教員採用試験との関係」についてガイダンスを実施し、教育実習の重要性を認識させる。
② 附属学校教員の指導力向上について指導・支援するとともに、学生の実地教育について就職支援の立場から連携して取り組む。
③ 徳島県教育委員会学校訪問指導員(図工・美術担当)として、県内公立小・中学校を訪問し教員の指導力向上に連携して取り組む。

2. 点検・評価

- ① 教育実習前の7月24日に学部3年次生、大学院長期履修生に対し、「教育実習と教員採用試験との関係」についてガイダンスを実施した。学部生についてはほぼ全員が出席したが、院生は欠席者が多く、周知方法や意識付けについて課題が残った。
② 教員採用試験では、多くの自治体で「いじめへの対応」など、生徒指導や保護者・地域対応についての質問や場面指導が求められている。実習校の教員と話し合う機会があったが、教育実習ではこういった課題に対して、ほとんどの学生は体験できていないのが実情である。実習校との連携に加え、学生のボランティア先の学校とも連携し、学生のさまざまな体験の場を確保していく必要がある。
③ 7月に鳴門市内の中学校、10月に県西部の小学校を訪問指導する機会を得ることができた。私自身の現場での体験や教員養成の取り組みなどをもとに、現場教員の資質能力の向上のための指導助言をすることができた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

平成25年3月学部卒業者の教員就職率が75.5%で二位にとどまり、4年連続全国第一位は叶わなかったが、保育士・大学院進学者を除く教員就職率は91.2%となり、この分野では全国一位となることができた。実は、9月に最後の教員就職が決まった1名が決め手となった。卒業後もきめ細かく未就職者に連絡を取ってきた就職支援活動の成果である。

平成21年4月に赴任してから5年間でまたたく間に過ぎてしまい定年を迎えた。60歳を過ぎてからどれだけの仕事ができるかと不安もあったが、取り組んできたことが実を結び、今はそれが生き甲斐となっている。「大学への貢献」というよりむしろ生涯学習者である「自分自身への貢献」といえる5年間であった。深謝。